



2021年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年4月30日

東

上場会社名 オルバヘルスケアホールディングス株式会社 上場取引所
 コード番号 2689 URL <https://www.olba.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 前島 洋平
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 村田 宣治 (TEL) 086-236-1115
 四半期報告書提出予定日 2021年5月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第3四半期の連結業績(2020年7月1日~2021年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第3四半期	85,928	2.4	1,356	69.7	1,360	74.0	883	92.3
2020年6月期第3四半期	83,940	3.3	799	△14.5	782	△16.8	459	△24.2

(注) 包括利益 2021年6月期第3四半期 872百万円(121.2%) 2020年6月期第3四半期 394百万円(△23.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第3四半期	145.30	—
2020年6月期第3四半期	81.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年6月期第3四半期	40,888	7,874	19.3
2020年6月期	33,683	7,281	21.6

(参考) 自己資本 2021年6月期第3四半期 7,874百万円 2020年6月期 7,281百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期	—	0.00	—	45.00	45.00
2021年6月期	—	0.00	—		
2021年6月期(予想)				45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年6月期の連結業績予想(2020年7月1日~2021年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	114,114	5.8	1,440	55.3	1,441	59.2	931	185.3	153.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年6月期3Q	6,250,000株	2020年6月期	6,250,000株
② 期末自己株式数	2021年6月期3Q	167,676株	2020年6月期	167,605株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年6月期3Q	6,082,381株	2020年6月期3Q	5,650,715株

当第3四半期末において、「役員向け株式交付信託」が保有する当社株式116,600株を自己株式に含めています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績等は、業況の変化等により、上記数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項については、3ページ1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。
- ・当社は、2021年1月1日に株式会社カワニシホールディングスからオルバヘルスケアホールディングス株式会社に商号変更しました。詳細につきましては、2020年8月11日に開示した適時開示(商号の変更並びに定款の一部変更、及び本店所在地変更に関するお知らせ)をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の連結売上高は859億28百万円（前年同期比 2.4%増）、連結営業利益は13億56百万円（前年同期比 69.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億83百万円（前年同期比 92.3%増）となりました。

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しています。詳細は、「第2 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等) 【セグメント情報】」の「II 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

セグメントごとの業績は、次のとおりです。

〈医療器材事業〉

医療器材事業の商品分類・地域別の売上高は下記の通りです。

〈第3四半期 医療器材事業 商品分類別・地域別売上高〉

単位：百万円

	中国地方	四国地方	関西地方	東北地方	関東地方 その他	合計
消耗品	25,811 ▲1.0%	13,377 ▲0.3%	9,382 ▲9.1%	13,032 ▲1.0%	1,362 ▲15.3%	62,967 ▲2.5%
設備・備品	4,242 +32.8%	2,245 +28.0%	639 ▲10.0%	4,548 +38.2%	73 ▲45.9%	11,749 +29.3%

※1 表の売上高は事業会社の単純合算値であり、医療器材事業の売上高とは一致しません。

※2 上段は当第3四半期における売上高を、下段は前年同期比を示しています。

成長の軸となる消耗品全体の売上高は、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の感染拡大に伴う手術件数減少の影響を引き続き受け、前年同期比2.5%減となりました。その内訳は以下のとおりです。

手術関連消耗品の売上高は、眼科領域において、前第3四半期に診療報酬の改定による特需がありました。その反動等により、眼科関連製品は前年同期比25.1%減となりました。また、コロナ拡大にともなう手術件数の減少により、主力の外科関連製品が同5.9%減、麻酔関連製品が同2.6%減となりましたが、PPE（マスク、手袋等の個人用防護具）関連製品が同80.9%増、PCR検査機器等を含む理化学関連製品が同8.7%増など、需要が増加したものもありました。さらに重点領域として取り組んでいる糖尿病関連製品が同7.9%増などの結果、手術関連消耗品全体では同0.3%増となり、第2四半期までは前年実績を下回っていたところ、増加に転じました。

整形外科消耗品の売上高は、コロナの影響でクリニックから基幹病院への患者の紹介が減少したこと、医療機関においてコロナ病床を確保するために手術件数を削減したことなどの影響を引き続き受けています。また、一部の得意先における失注の影響で、兵庫県で売上高前年同期比26.6%減、奈良県で同12.6%減、東京都で同55.1%減となりました。その結果、整形外科消耗品の売上高は同8.0%減となりました。一方で、愛媛県で同1.8%増、広島県で同1.4%増、宮城県で同14.7%増など、この環境下でシェアを拡大したエリアもあります。

循環器消耗品の売上高は、コロナの影響により重点領域として取り組んでいたカテーテルアブレーション（頻脈の原因となる心筋組織を焼灼もしくは凝固する治療）関連製品が前年同期比5.7%減となりました。しかしながら、心臓・大血管に対する低侵襲治療の拡大により、SHD（TAVI[経カテーテル大動脈弁置換]などを含む機能的な心疾患領域）等の関連製品が同20.2%増と順調に伸長しました。その結果、循環器消耗品全体では同1.8%減と、コロナの影響を最小限にとどめました。

設備・備品の売上高は、ECMO（血液の体外循環による呼吸治療装置）や人工呼吸器、感染防止に用いられる設備備品など、コロナ対策関連の予算執行がありました。また、設備・備品の更新案件も順調に獲得できたことにより、前年同期比29.3%増となりました。

その結果、医療器材事業は、売上高746億14百万円（前年同期比 1.4%増）、営業利益12億44百万円（前年同期比 19.6%増）となりました。

〈SPD事業〉

SPD事業は、前期に新規で受託した施設が順調に稼働したこと、PPE関連製品の需要が増加したことなどにより、売上高は143億82百万円（前年同期比 5.9%増）となりました。また、物品管理サービス料金の見直しや、消耗品の仕入改善を継続した結果、営業利益は1億20百万円（前年同期比 73.6%増）となりました。

〈介護用品事業〉

介護用品事業は、主力の介護用品レンタル売上高が前年同期比4.9%増と順調に成長を続けています。また、レンタルに付随する物品販売において空気清浄器や飛沫防護用パーテーション等のコロナ対策品に対する需要が継続したことにより、売上高は17億38百万円（前年同期比 5.9%増）となりました。また、レンタルの利益率改善を引き続き推し進めたことにより、営業利益は1億9百万円（前年同期比 26.3%増）となりました。

また、前年同期は前連結会計年度まで報告セグメントとしていた輸入販売事業において、金融資産に対する貸倒引当金繰入額2億57百万円を販売費及び一般管理費に計上したことが営業利益に大きく影響を与えましたが、当期は同様の事例は発生しなかったため、利益の増加要因となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間の総資産は408億88百万円となり、前連結会計年度と比べ72億5百万円増加しました。主な要因は、現金及び預金が17億80百万円、受取手形及び売掛金が38億8百万円、電子記録債権が7億20百万円、商品が6億5百万円、無形固定資産が1億91百万円、投資その他の資産が18百万円それぞれ増加したことによるものです。

また、負債は330億13百万円となり、前連結会計年度と比べ、66億11百万円増加しました。主な要因は、支払手形及び買掛金が55億52百万円、電子記録債務が5億92百万円、短期借入金が5億円、役員株式給付引当金が46百万円それぞれ増加したことによるものです。

純資産は78億74百万円となり、前連結会計年度と比べ、5億93百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益により8億83百万円増加した一方で、配当金により2億78百万円減少したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、2.3ポイント減少し、19.3%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

おおむね計画通りに推移しており、2020年8月11日に公表した業績予想に変更はありません。

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき、作成したものです。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,925,988	3,706,232
受取手形及び売掛金	17,942,559	21,751,512
電子記録債権	1,095,698	1,816,662
商品	5,417,929	6,023,393
その他	343,301	426,363
流動資産合計	26,725,478	33,724,165
固定資産		
有形固定資産	4,582,386	4,579,087
無形固定資産		
その他	504,444	696,228
無形固定資産合計	504,444	696,228
投資その他の資産	1,871,137	1,889,138
固定資産合計	6,957,968	7,164,455
資産合計	33,683,446	40,888,620
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,329,001	19,881,527
電子記録債務	5,606,746	6,198,753
短期借入金	2,120,000	2,620,000
未払法人税等	322,633	371,874
賞与引当金	36,546	69,708
その他	1,382,114	1,456,375
流動負債合計	23,797,043	30,598,238
固定負債		
長期借入金	495,000	330,000
役員株式給付引当金	100,399	146,500
退職給付に係る負債	376,792	404,534
長期未払金	309,944	290,065
その他	1,322,593	1,244,381
固定負債合計	2,604,729	2,415,482
負債合計	26,401,772	33,013,720
純資産の部		
株主資本		
資本金	607,750	607,750
資本剰余金	346,954	346,954
利益剰余金	6,433,568	7,038,370
自己株式	△246,526	△246,635
株主資本合計	7,141,746	7,746,438
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	120,919	118,184
退職給付に係る調整累計額	19,007	10,276
その他の包括利益累計額合計	139,927	128,461
非支配株主持分	—	—
純資産合計	7,281,674	7,874,899
負債純資産合計	33,683,446	40,888,620

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2020年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2021年3月31日)
売上高	83,940,406	85,928,236
売上原価	75,420,045	77,054,118
売上総利益	8,520,361	8,874,117
販売費及び一般管理費	7,720,888	7,517,478
営業利益	799,472	1,356,639
営業外収益		
受取利息	228	264
受取配当金	834	899
受取保険金	1,995	2,038
受取手数料	11,775	24,005
売電収入	6,494	6,636
その他	23,056	11,044
営業外収益合計	44,384	44,889
営業外費用		
支払利息	20,372	17,880
持分法による投資損失	17,411	14,297
売電費用	5,235	4,642
その他	18,503	3,740
営業外費用合計	61,523	40,561
経常利益	782,333	1,360,967
特別利益		
有形固定資産売却益	3,016	1,419
特別利益合計	3,016	1,419
特別損失		
投資有価証券評価損	21,414	—
有形固定資産除却損	2,421	824
特別損失合計	23,836	824
税金等調整前四半期純利益	761,513	1,361,561
法人税、住民税及び事業税	340,028	471,830
法人税等調整額	47,524	5,975
法人税等合計	387,553	477,805
四半期純利益	373,960	883,756
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△85,590	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	459,550	883,756

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)
四半期純利益	373,960	883,756
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22,717	△2,735
退職給付に係る調整額	△2,392	△8,730
その他の包括利益合計	20,324	△11,466
四半期包括利益	394,285	872,290
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	479,875	872,290
非支配株主に係る四半期包括利益	△85,590	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額
	医療器材 事業	SPD事業	介護用品 事業	輸入販売 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	68,815,622	13,484,510	1,640,274	—	83,940,406	—	83,940,406
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,791,975	93,805	743	—	4,886,523	△4,886,523	—
計	73,607,597	13,578,315	1,641,017	—	88,826,930	△4,886,523	83,940,406
セグメント利益又は 損失(△)	1,040,308	69,371	87,076	△295,175	901,582	△102,109	799,472

(注)1 セグメント利益の調整額△102,109千円には、セグメント間取引消去6,863千円、各報告セグメントに配分しない全社費用△108,972千円が含まれています。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門費です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額
	医療器材 事業	SPD事業	介護用品 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	69,901,132	14,289,427	1,737,676	85,928,236	—	85,928,236
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,713,198	93,555	433	4,807,186	△4,807,186	—
計	74,614,330	14,382,983	1,738,109	90,735,423	△4,807,186	85,928,236
セグメント利益	1,244,373	120,452	109,982	1,474,807	△118,168	1,356,639

(注) 1 セグメント利益の調整額△118,168千円には、セグメント間取引消去6,441千円、各報告セグメントに配分しない全社費用△124,609千円が含まれています。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門費です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度まで株式会社エクソーラメディカルは「輸入販売事業」として、呼吸による乳がん検査装置の国内導入に向けて準備を継続してきましたが、当初想定していた検査性能が得られず、今後国内導入に向けての事業活動を継続することが難しいと前連結会計年度末に判断しました。そのため第1四半期連結会計期間より「輸入販売事業」セグメントを除外しています。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。